

和泉市告示第 209 号

和泉市財政状況の公表に関する条例（昭和31年和泉市条例第34号）の規定に基づき、
令和7年10月1日から令和8年3月31日までの期間における和泉市の財政状況を公表
する。

令和 8 年 6 月 24 日

和泉市長 辻 宏 康

令和7年度一般会計予算及び収支状況

第1表

<歳入>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入済額	今 期 収 入 済 額	収 入 済 額 合 計	過不足(対予算現額)
1 市 税	25,079,276	25,965,360	15,316,812	9,632,848	24,949,660	△ 129,616
2 地 方 譲 与 税	361,476	361,339	105,343	255,996	361,339	△ 137
3 利 子 割 交 付 金	70,000	70,877	24,061	46,816	70,877	877
4 配 当 割 交 付 金	260,000	317,854	54,576	263,278	317,854	57,854
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	400,000	484,342	0	484,342	484,342	84,342
6 法 人 事 業 税 交 付 金	510,000	490,490	242,183	248,307	490,490	△ 19,510
7 地 方 消 費 税 交 付 金	4,400,000	4,685,981	2,713,026	1,972,955	4,685,981	285,981
8 ゴ ル フ 場 利 用 税 交 付 金	38,000	36,287	14,340	21,947	36,287	△ 1,713
9 環 境 性 能 割 交 付 金	105,000	102,741	38,260	64,481	102,741	△ 2,259
10 国 有 提 供 施 設 等 所 在 市 町 村 助 成 交 付 金	216,082	222,282	0	222,282	222,282	6,200
11 地 方 特 例 交 付 金	210,012	211,268	204,160	7,108	211,268	1,256
12 地 方 交 付 税	11,000,000	12,289,146	7,793,902	4,495,244	12,289,146	1,289,146
13 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	23,564	19,675	10,255	9,420	19,675	△ 3,889
14 分 担 金 及 び 負 担 金	221,240	240,452	102,251	113,242	215,493	△ 5,747
15 使 用 料 及 び 手 数 料	1,164,223	1,133,017	408,384	606,877	1,015,261	△ 148,962
16 国 庫 支 出 金	25,138,632	23,283,767	7,568,804	12,716,262	20,285,066	△ 4,853,566
17 府 支 出 金	7,074,813	6,765,326	778,817	3,074,949	3,853,766	△ 3,221,047
18 財 産 収 入	322,325	300,438	18,714	281,643	300,357	△ 21,968
19 寄 附 金	1,500,000	1,449,162	420,398	1,028,776	1,449,174	△ 50,826
20 繰 入 金	4,995,857	1,111,189	0	4,660,523	4,660,523	△ 335,334
21 諸 収 入	475,584	1,032,025	150,565	325,241	475,806	222
22 市 債	7,892,800	4,872,300	0	18,600	18,600	△ 7,874,200
23 繰 越 金	670,284	670,284	670,284	0	670,284	0
歳 入 合 計	92,129,168	86,115,602	36,635,135	40,551,137	77,186,272	△ 14,942,896

令和7年度一般会計予算及び収支状況

第2表

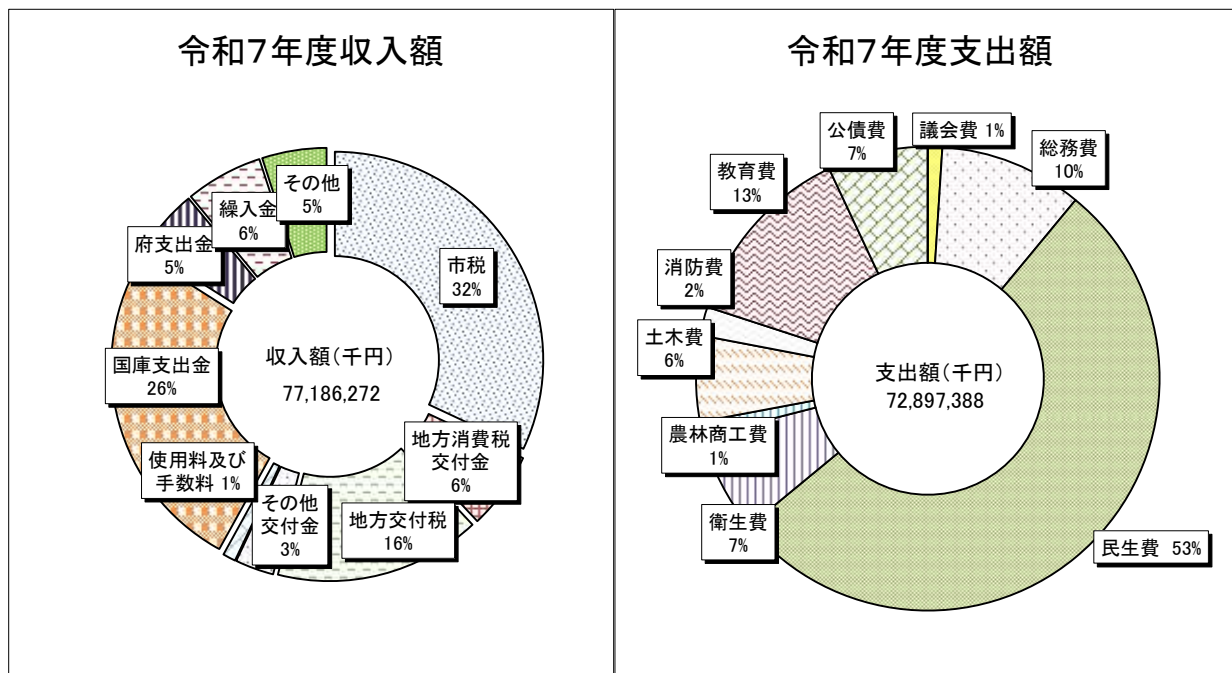
<歳出>

(単位:千円)

科目	予算現額	支出状況			
		9月までの支出済額	今期支出済額	支出済額合計	予算残高
1 議会費	418,365	210,472	194,630	405,102	13,263
2 総務費	9,686,989	3,367,399	4,086,544	7,453,943	2,233,046
3 民生費	44,107,010	16,861,660	21,721,560	38,583,220	5,523,790
4 衛生費	6,183,420	2,026,038	2,913,126	4,939,164	1,244,256
5 農林水産業費	405,855	99,936	160,017	259,953	145,902
6 商工費	2,192,172	666,936	113,650	780,586	1,411,586
7 土木費	5,932,095	1,822,723	2,261,021	4,083,744	1,848,351
8 消防費	2,011,042	754,223	977,803	1,732,026	279,016
9 教育費	14,071,773	3,636,722	5,574,101	9,210,823	4,860,950
10 災害復旧費	4	0	0	0	4
11 公債費	5,556,034	2,530,310	2,882,864	5,413,174	142,860
12 諸支出金	1,532,817	0	35,653	35,653	1,497,164
13 予備費	31,592	0	0	0	31,592
歳出合計	92,129,168	31,976,419	40,920,969	72,897,388	19,231,780

(注) 歳入歳出差引残高 4,288,884千円

[参考資料1]



令和7年度国民健康保険事業特別会計予算及び収支状況

第3・4表
 <歳入>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入済額	今 期 収 入 済 額	収入済額合計	過不足(対予算現額)
1 国民健康保険料	3,546,850	4,317,441	1,526,245	1,861,052	3,387,297	△ 159,553
2 一部負担金	1	0	0	0	0	△ 1
3 使用料及び手数料	1,380	1,538	472	880	1,352	△ 28
4 国庫支出金	25,131	30,776	36	22,994	23,030	△ 2,101
5 府支出金	12,810,401	12,341,545	5,296,963	6,154,114	11,451,077	△ 1,359,324
6 財産収入	800	1,260	162	1,098	1,260	460
7 繰入金	1,637,107	1,564,478	170,000	1,464,677	1,634,677	△ 2,430
8 繰越金	14,145	14,144	14,144	0	14,144	△ 1
9 諸収入	27,132	49,870	20,917	25,849	46,766	19,634
10 一時運用金	0	0	0	0	0	0
歳入合計	18,062,947	18,321,052	7,028,939	9,530,664	16,559,603	△ 1,503,344

<歳出>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	支 出 状 況			
		9月までの支出済額	今 期 支 出 済 額	支出済額合計	予 算 残 額
1 総務費	260,506	98,222	114,370	212,592	47,914
2 保険給付費	12,533,833	5,257,909	5,968,595	11,226,504	1,307,329
3 国民健康保険事業費納付金	4,972,896	1,519,174	3,386,766	4,905,940	66,956
4 保健事業費	221,108	59,651	89,053	148,704	72,404
5 基金積立金	9,736	0	9,735	9,735	1
6 公債費	680	0	0	0	680
7 諸支出金	14,188	4,419	2,076	6,495	7,693
8 予備費	50,000	0	0	0	50,000
9 共同事業拠出金	0	0	0	0	0
歳出合計	18,062,947	6,939,375	9,570,595	16,509,970	1,552,977

(注)歳入歳出差引残高 49,633千円

令和7年度公共用地先行取得事業特別会計予算及び収支状況

第5・6表
 <歳入>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入済額	今 期 収 入 済 額	収入済額合計	過不足(対予算現額)
1 財産収入	335,840	16,038	0	16,038	16,038	△ 319,802
2 繰入金	229,544	223,304	109,052	114,252	223,304	△ 6,240
3 市債	130,000	117,000	0	117,000	117,000	△ 13,000
4 繰越金	0	0	0	0	0	0
歳入合計	695,384	356,342	109,052	247,290	356,342	△ 326,042

<歳出>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	支 出 状 況			
		9月までの支出済額	今 期 支 出 済 額	支出済額合計	予 算 残 額
1 公共用地先行取得事業費	130,300	0	50,100	50,100	80,200
2 公債費	229,244	109,052	109,550	218,602	10,642
3 諸支出金	335,840	0	16,038	16,038	319,802
歳出合計	695,384	109,052	175,688	284,740	410,644

(注)歳入歳出差引残高 71,602千円

令和7年度介護保険事業特別会計予算及び収支状況

第7・8表
 <歳入>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入済額	今 期 収 入 済 額	収入済額合計	過不足(対予算現額)
1 保 険 料	3,879,992	3,678,213	1,820,324	1,803,913	3,624,237	△ 255,755
2 分 担 金 及 び 負 担 金	45	28	5	20	25	△ 20
3 使 用 料 及 び 手 数 料	378	331	110	181	291	△ 87
4 国 庫 支 出 金	3,803,271	3,800,239	1,812,845	1,759,352	3,572,197	△ 231,074
5 支 払 基 金 交 付 金	4,568,010	4,273,862	2,022,777	2,058,341	4,081,118	△ 486,892
6 府 支 出 金	2,584,091	2,405,164	879,145	1,365,623	2,244,768	△ 339,323
7 財 産 収 入	1,251	1,248	0	1,248	1,248	△ 3
8 繰 入 金	2,890,434	2,730,054	295,000	1,680,000	1,975,000	△ 915,434
9 繰 越 金	159,686	159,686	159,686	0	159,686	0
10 諸 収 入	2,421	2,164	375	1,014	1,389	△ 1,032
歳 入 合 計	17,889,579	17,050,989	6,990,267	8,669,692	15,659,959	△ 2,229,620

<歳出>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	支 出 状 況				予 算 残 額
		9月までの支出済額	今 期 支 出 済 額	支出済額合計		
1 総 務 費	569,279	137,942	143,708	281,650	287,629	
2 保 険 給 付 費	16,182,034	6,434,440	7,734,793	14,169,233	2,012,801	
3 地 域 支 援 事 業 費	907,607	338,248	423,801	762,049	145,558	
4 基 金 積 立 金	132,707	0	132,707	132,707	0	
5 公 債 費	1,000	0	0	0	1,000	
6 諸 支 出 金	66,952	3,952	2,068	6,020	60,932	
7 予 備 費	30,000	0	0	0	30,000	
歳 出 合 計	17,889,579	6,914,582	8,437,077	15,351,659	2,537,920	

(注)歳入歳出差引残高 308,300千円

令和7年度後期高齢者医療事業特別会計予算及び収支状況

第9・10表
 <歳入>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入済額	今 期 収 入 済 額	収入済額合計	過不足(対予算現額)
1 後 期 高 齢 者 医 療 保 険 料	2,816,405	2,736,821	1,129,320	1,481,747	2,611,067	△ 205,338
2 使 用 料 及 び 手 数 料	151	160	31	102	133	△ 18
3 繰 入 金	749,469	694,898	82,000	614,705	696,705	△ 52,764
4 繰 越 金	1	102,042	102,042	0	102,042	102,041
5 諸 収 入	5,215	10,925	134	189	323	△ 4,892
6 国 庫 支 出 金	15,939	12,562	0		1,408	
歳 入 合 計	3,587,180	3,557,408	1,313,527	2,096,743	3,411,678	△ 160,971

<歳出>

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	支 出 状 況				予 算 残 額
		9月までの支出済額	今 期 支 出 済 額	支出済額合計		
1 総 務 費	72,464	26,682	15,661	42,343	30,121	
2 広 域 連 合 納 付 金	3,510,848	1,149,808	1,910,459	3,060,267	450,581	
3 諸 支 出 金	2,888	2,425	462	2,887	1	
4 予 備 費	980	0	0	0	980	
歳 出 合 計	3,587,180	1,178,915	1,926,582	3,105,497	481,683	

(注)歳入歳出差引残高 306,181千円

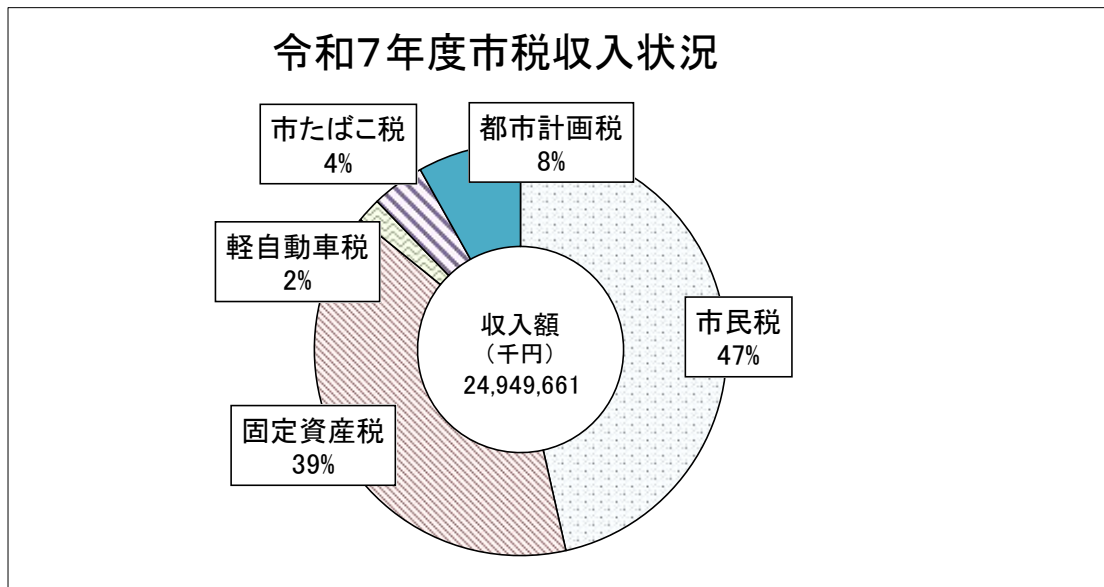
令和7年度市税収入状況

第11表

(単位:千円)

科 目	予 算 現 額	調 定 済 額	収 入 状 況			
			9月までの収入額	今 期 収 入 額	合 計	過不足(対予算現額)
市 税	25,079,276	25,965,359	15,584,114	9,365,547	24,949,661	△ 129,615
1 普 通 税	23,067,297	23,930,009	14,087,199	8,845,878	22,933,077	△ 134,220
市 民 税	11,686,337	12,381,525	5,854,448	5,740,781	11,595,229	△ 91,108
固 定 資 産 税	9,768,238	9,934,712	7,309,222	2,513,889	9,823,111	54,873
軽 自 動 車 税	475,722	493,544	448,451	27,929	476,380	658
市 た ば こ 税	1,137,000	1,120,228	475,078	563,279	1,038,357	△ 98,643
2 目 的 税	2,011,979	2,035,350	1,496,915	519,669	2,016,584	4,605
都 市 計 画 税	2,011,979	2,035,350	1,496,915	519,669	2,016,584	4,605

[参考資料2]



住民の市税等負担状況

第12表

(単位:円)

区 分	市 税	国民健康保険料
令和7年度調定額	25,965,358,739	4,317,441,690
1人当たり課税額等	143,491	144,449
1世帯当たり課税額等	309,838	215,506
備 考	当市人口	当市被保険者数
	180,955人	29,889人
	世帯数	被保険者世帯数
	83,803世帯	20,034世帯

(ただし、令和8年 3月31日現在)

市有財産の現在高

第13表

(単位:㎡)

区 分	面 積	
	教 育 財 産	そ の 他
土 地	814,753.29	2,285,636.64
建 物	248,205.16	287,617.21
小 計	1,062,958.45	2,573,253.85
合 計	3,636,212.30	

(ただし、令和8年 3月31日現在)

地方債の現在高

第14表

(単位:千円)

区 分	未 償 還 額	備 考
1 普 通 債	29,794,580	
1 総 務	6,621,593	
2 民 生	59,914	
3 衛 生	957,893	
4 農 林 水 産	136,846	
5 商 工	120	
6 土 木	3,618,520	
7 消 防	1,653,037	
8 教 育	6,866,453	
9 減 税 補 て ん	6,113	
10 減 収 補 て ん	62,331	
11 臨 時 財 政 対 策 債	9,811,760	
2 災 害 復 旧	46,004	
1 農 林 水 産	200	
2 土 木	38,818	
3 教 育 施 設	6,986	
一 般 合 計	29,840,584	
公 共 用 地 先 行 取 得 事 業 債	1,829,647	

一時借入金の現在高

第15表

(単位:千円)

借 入 先	借 入 金 額	備 考
	0	
合 計	0	

令和 8 年 度

市 政 運 営 方 針

和泉市長 辻 宏 康

令和8年度 市政運営方針

《 はじめに 》

本日、令和8年和泉市議会第1回定例会開催にあたり、市政運営の基本方針と主要施策の大綱につきまして、私の所信の一端を申し述べ、議員並びに市民皆様のご理解とご協力をお願いする次第でございます。

さて、今年の干支は、「丙午（ひのえうま）」です。「丙」は、十干の三番目であり、陽の「火」を表し、太陽のような明るさや情熱、強い意志を象徴します。「午」は、十二支の七番目で、これもまた陽の「火」に属し、行動力やスピード、エネルギーを意味します。すなわち「丙」と「午」の組み合わせとなる今年は、情熱と行動力で突き進み、燃え盛る様なエネルギーで、道を切り拓くと言ったパワーに満ちた一年になるとされています。

令和5年の市政運営方針で、「和泉発日本」を合言葉として、職員とともに「ど真剣」に取り組むことを宣言いたしました。そして令和6年は、「卯跳ねて、辰巳天井を突き抜ける和泉市」を実現することを宣言いたしました。

身びいきのそしりを覚悟のうえで申し上げますと、昨年、一昨年と、子育て、教育、医療、福祉、防災、防犯等、市民の皆様に身近な施策から、公園や道路等の地域基盤整備についても、市内のバランスを図りながら、まちづくりを大きく推進することができたと自負いたしております。これも議員皆様や市民皆様のご理解とご支援、職員の真摯な取り組みの賜物と、心から感謝いたしております。

また、いぶき野での民間ホテルの建設が開始され、観音寺町でショッピングモールの開発が行われる等、まち全体が活力に溢れてきた感があります。それに加え、大阪府の事業ではございますが、和泉警察署の移転新築により防犯体制の強化が期待されるとともに、渋滞緩和に向け室堂町北交差点の立体交差化も進められています。

まるで和泉市が、スポーツで言われるところの「ゾーン状態」に入ったかのように、素晴らしい成果が生まれているように感じています。そのような中、昨年、大阪の地で55年ぶりに大阪・関西万博が開催され、万博の持つ素晴らしさや、和泉市の魅力、地域の絆を日本中に、そして世界中に発信することができました。この万博の勢いを和泉市の新たな原動力として、行政全般で、更なる変革と成長を力強く進めてまいります。

5期目の所信表明で、私の挑戦はまだ終わっていない。むしろこれからが本番だと、述べさせていただきました。まさに、富秋中学校区等のまちづくり、泉北環境整備施設組合の施設更新、和泉府中駅前活性化、国道170号沿線の土地活用など、和泉市の将来に関わる大きな課題に対し、これまで以上に気を引き締めて市政に取り組んでまいります。

《 市制施行70周年 》

そして今年、令和8年は市制施行70周年の記念すべき節目の年です。昭和31年に人口5万人の市として誕生して以来、本市は豊かな自然と大阪都心部への交通利便性を兼ね備えた住宅都市として発展し、現在では市制施行時の3倍を超える人口を擁しています。これまでの発展を支えてこられた尊い先人の功績に敬意を表するとともに、これからも「和泉市の未来」が夢と希望に満ちあふれ、誰もが輝けるまちをめざし、「輝くミライズミ」をキャッチフレーズとして、市制施行70周年事業を展開してまいります。

《 総合計画・創発プラン・総合戦略 》

さて、令和8年度からは第6次和泉市総合計画及び和泉創発プラン2.0、そしてこれら2つの計画をもとにした第3期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略がスタートいたします。

総合計画においては、人口減少・少子高齢化、激甚化する災害や地域コミュニティの希薄化などといった時代潮流のなか、本市が「選ばれるまち」として持続的に発展を続けていくことをめざして、「住めば住むほど好きになる ちょうどいいまち 和泉」を将来都市像に掲げて施策を組み立て、具体的に取り組んでいく事業を和泉創発プラン2.0や各種個別計画において描いております。

末広がりである令和8年を、創発プランをバージョンアップさせた創発プラン2.0元年にふさわしい一年となるよう、揺るがぬ覚悟と固い決意を持って、市政発展に邁進してまいります。

《 輝く未来を創る 3つのテーマ 》

それでは、次に5期目のスタート時に申し上げた3つのテーマ

1. 安心して暮らせるまちづくり
2. 活力のある元気なまちづくり
3. ワクワクする夢のあるまちづくり

に沿って、今年度取り組むまちづくりについてご説明を申し上げます。

【1. 安心して暮らせるまちづくり】

市民の命と暮らしを守り、安心して暮らせるまちづくりを推進するため、防災・防犯対策、また救急体制や福祉の充実等に取り組んでまいります。

まず、南海トラフ地震等の大規模災害に備え、災害用備蓄品の保管や大規模災害時にプッシュ型で届く緊急支援物資を受け入れる（仮称）防災備蓄倉庫の建設工事に着手します。また、災害に強く持続可能な上下水道施設の運営・管理に向け、防災拠点や避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等の耐震化を実施します。

次に、市内の犯罪誘発を防止するため、町会・自治会等が設置している防犯灯の電気料金について、半額補助から全額補助に拡充し、安全・安心なまちづくりの推進と、町会・自治会の負担軽減を図ります。

また、救急需要の高い平日昼間帯に救急活動を行う「デイトタイム救急隊」を設立し、救急体制を強化します。

そして、子育て世帯の経済的負担の軽減及び学校給食の質の維持を目的として、小学校給食については、国・府による支援に加え、市独自の追加支援を行うことにより無償化を実現します。また、中学校給食については、物価高騰等により値上げが必要となる給食費の増額分を補助します。

また、ひとり親家庭に食材等の提供を行っている団体を支援するため、食材提供者とのマッチングや物品配送等を行います。

【2. 活力のある元気なまちづくり】

これからも本市が持続的に発展を続ける、活力のある元気なまちであるためには、誰もが健康で活躍し、まち全体がにぎわっていくことが大切です。

まず、富秋中学校区を中心とする地域の魅力あるまちづくりの推進に向け、市営住宅・市営店舗等の集約建替えの設計・工事に着手します。

また、黒鳥山公園の魅力や利便性の向上を目的に、飲食が可能な民間施設をオープンさせるほか、駐車場やトイレ、エントランス等の整備を行います。

本市の骨格を形成する都市幹線道路である「和泉中央線」に

つきましては、朝夕のピーク時に交通渋滞が発生している国道480号分岐から観音寺町西交差点までの区間における渋滞対策を行うため、道路詳細設計、用地買収に向けた土地鑑定及び物件等の調査を行います。

次に、物価高騰の影響を受けている市民等を支援するため、国の重点支援地方交付金を活用し、家計の負担軽減に加え、市内の消費喚起及び商業活性化にも資するよう、お買い物割引チケットを配布するほか、水道の基本料金全額を6か月間減額します。

障がい者の就労環境を向上し、地域社会で活躍できる人材を育成するため、障がい者を市が有期雇用し、一般企業への就労を支援する「チャレンジオフィス」を開設します。

健康寿命の延伸に向けては、買い物等に利用できる電子地域ポイントを導入し、市主催の各種イベントや教室に参加する65歳以上の方にポイントを付与するほか、市内に設置するウォーキングコースを歩いた方にも付与し、市民が健康を意識した生活を行う仕組みを構築します。また、多様な交通モードを乗り継ぐ拠点である「モビリティハブ」について、待ち時間を快適に過ごせる、交流とにぎわいのある空間を創出するとともに、公共交通の利用促進と

ウォークアブルなまちづくりに取り組む実証実験を行います。

【3. ワクワクする夢のあるまちづくり】

和泉市がこれから市制施行100周年に向かっていくうえでは、暮らしやすさだけでなく、楽しく、夢が感じられ多くの人が集まり発展するまちをめざしていくことが重要です。

まず、英語検定受験料につきましては、従来の本会場と市内の学校での受験者への補助に加え、塾等の準会場での受験者も補助するよう対象を拡大します。また、英語検定2級以上の取得をめざす生徒への英語力向上支援講座の受講料補助に加え、準2級及び3級の取得をめざす生徒には、受験対策動画を視聴できる環境を整えます。

他にも、令和6年度から市の独自制度として段階的に拡充してきた中学校35人学級編制を全学年で実施し、学力向上や児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育活動の充実を図るほか、AIドリルを活用したいずみ希望塾を継続し、学習習慣の定着を図ります。

加えて、確かな学力を育成するため、学校ごとの実情に即した伴走支援に取り組むほか、学力向上検討委員会を開催し、取組の分析・検証や今後の方向性について検討します。

そして、南部地域のにぎわい創出を目的に、交流と癒やしの場を

提供できるよう、青少年の家を「槇尾山レクリエーションセンター」にリニューアルするための改修工事に引き続き取り組みます。

《 市制施行70周年記念事業 》

市制施行70周年記念事業として、次の事業を実施してまいります。

- 本市の発展に寄与された方に感謝の意を示すため、記念式典を開催し、感謝状を贈呈するほか、記念アトラクションを行います。
- 夢や希望に満ち溢れ、誰もが輝けるまちをめざし、市民提案による特別記念事業を実施します。
- 市内のだんじりを一堂に集め、市制施行70周年を祝う記念曳行事業に協力し、伝統文化であるだんじりの魅力を市内外に発信します。
- 久保惣記念美術館において、ナイトミュージアムに合わせてプロジェクションマッピングを実施するほか、猫のアートコンクールなどを開催します。
- 市内産木材である「いずもく」の普及啓発を目的に、ものさしを市内の小・中学生に配布するとともに、木製モニュメントを市役所に設置します。
- 市制施行50周年を記念して埋設したタイムカプセルを開封し、児童等が20年後の自分あてに書いた夢レターを届けます。

- 幅広い世代に親しまれる公開テレビ番組を招致し、市民参加を通じて地域の絆を深めるとともに、本市の魅力を全国へ発信します。
- 和泉市文化協会との連携により、伝統文化である華道や陶芸などを体験できる機会を提供することで、さらなる文化振興を図ります。
- 市民の郷土愛を醸成するため、本市の誕生や災害の歴史などを記載した記念冊子を作成します。
- 和泉府中駅前に華やかさとさらなる賑わいを作り出すため、イルミネーションの充実を図ります。
- 脱炭素や大気環境保全の啓発として、こども達が楽しみながら学べる移動式プラネタリウム体験を学校等で実施します。
- 歴史ある信太山クロスカンントリー大会について、ランナーの激走をライブ配信することで、大会の魅力を全国に発信します。
- いずみの国歴史館において、本市の成立と発展を振り返る市制施行70周年記念特別展を開催します。
- 和泉市民健康まつりにおいて、AI健康測定機器を導入するなど未来に向けた健康づくりを体験する場を提供します。

《 令和8年度に取り組む主要な事業 》

次に、令和8年度に取り組むその他の主要な事業について、新たな

事業や拡充した事業を中心に、令和8年度から計画開始予定の「第6次和泉市総合計画」の体系に沿って、順次ご説明いたします。

1. 居心地よさを実感できる、住み続けたいと思えるまちの実現

(結婚・出産・子育ての希望を叶える仕組みづくり)

○保護者の子育てと就労の両立を支援するため、市内1か所で実施している病児保育について新たな事業者を募集します。

○出産後から就学前までの切れ目ない健診を実施するため、従来の乳幼児健康診査に5歳児健康診査を追加します。

○出産後も安心して子育てができるよう、出産後4か月未満までとしていた産後ケア事業の利用期間を1歳までに延長します。

○国府幼稚園と和泉保育園を統合し、市内2園目の公立認定こども園となる「(仮称)いずみ国府こども園」の令和9年4月開園に向け、新園舎等の整備を行います。

○待機児童等の解消のため、中部地域において新たな民間認定こども園を新設するための費用を補助します。

○医療的ケア機能を備えた民間認定こども園に対し、看護師配置に係る費用を補助することで、一人ひとりの多様性を理解し共に

成長できる保育の実施に取り組みます。

- 特別な支援を要する児童の民間保育所等での受け入れ促進と、
保育機会の均等化を図るため、特別支援児補助金制度を拡充します。
- 児童の更なる安全確保と保育士の負担軽減を図るため、公立保育園
における保育支援者の配置を拡充します。
- 生後6か月から2歳までの、保育所等を利用していないこどもを
対象に、毎月一定時間まで利用できる「こども誰でも通園制度」
を公立保育園2園で実施します。
- 留守家庭児童会を安定して運営するため、令和9年4月開校予定
の「(仮称) 富秋学園」と近隣複数校での一括民間委託に向けて、
事業者選定及び引継保育を実施します。

(市の魅力づくりと移住・定住の促進)

- 著名人を起用した電子雑誌を作成することで、本市の知名度を高め、
来訪促進やふるさと納税の増額という好循環を創出します。
- 「和泉ビリケン」が駅長をつとめる道の駅と、「通天閣ビリケン」
がいる通天閣との共同事業により、道の駅の賑わいを創出します。
- 本市が誇る久保惣記念美術館の魅力を高め、発展・存続するため、

リニューアルに向けた基本計画を策定します。

(豊かな自然環境の保護・保全)

○脱炭素化を推進するため、太陽光発電システム・蓄電池・高効率給湯器等の導入補助を継続します。

○缶・ビンや紙類等の資源ごみの無断持ち去りを防ぐため、条例を整備して対策を強化します。

○信太山丘陵里山自然公園について、開園済みの西側エリアに続き、東側エリアの用地取得を進め、園路等の整備を行います。

(充実したインフラ整備)

○人口減少や災害リスクに備え、将来を見据えた持続可能な都市基盤づくりをめざす「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」の中間見直しに着手します。

○地域の移動手段確保のため、阪和線西エリアにおいて、運賃を有償としたデマンド型交通の実証運行を実施します。

○北信太駅周辺の都市基盤整備を推進するため、事業用地の取得を継続するほか、駅構内にある既存地下通路の閉塞工事を行います。

○安全に自転車が利用できる環境整備を進めるため、光明池春木線

において自転車通行空間を確保する安全対策工事を行います。

- 景観の向上と交通の安全を確保するため、大木化した樹木の伐採を計画的に行い、街路樹を適正に管理します。

(市内企業・産業の活性化)

- 市内事業者の支援や企業誘致、来訪者の周遊による消費拡大を通じ、商工業のさらなる活性化を図るため、「(仮称) 商工振興・来訪促進計画」を策定します。
- 農業振興地域整備計画を改訂するにあたり、6次産業化の推進のため、加工施設等の必要性を踏まえた農用地区域の見直しを検討します。

2. 安心して自分らしく過ごすことができるまちの実現

(災害に強いまちづくり)

- 既存建築物の耐震化を促進するため、「和泉市耐震改修促進計画」の改訂に着手します。

(安心して暮らせるまちづくり)

- 漏水による2次被害の防止と水道事業経営への影響を抑制するため、他の自治体と連携し、人工衛星の画像解析技術を活用した漏水調査

を実施します。

○地域防災力を強化するため、消防団器具庫の計画的な更新について、新たに5か所の実施設計を行います。

○消防・救急体制を充実させるため、老朽化した消防・救急車両及び消防団配備車両を更新します。

(人権と多様性を尊重するまちづくり)

○市民の間に人権尊重の精神を育てるとともに、人権に対する理解を深めるため、「人権教育・啓発推進計画」を策定します。

○性別にかかわらず個人としての尊厳を重んじ、個性と能力が活かせる社会をめざすため、「男女共同参画行動計画」を策定します。

(いつでも頼れる仕組みづくり)

○家庭から排出されるごみを集積所まで持ち出すことが困難な高齢者等の負担軽減を図るため、作業員による戸別収集を行います。

(心身の健康づくりの推進)

○女性特有の健康課題の解決に向け、骨密度測定とオンラインを

活用した運動教室を実施し、骨粗しょう症及び生活習慣病予防に取り組めます。

○RSウイルス感染症から新生児及び乳児を守るため、妊婦を対象とした定期接種を開始します。

○多様化するスポーツのニーズに対応するため、「(仮称) 北部総合スポーツ公園基本計画」の策定に取り組めます。

○近年の猛暑に対応し、市民に快適に利用していただくため、市民体育館の空調設備の設計に取り組めます。

(こどもが健やかに育つ環境整備)

○教育と福祉の連携を深め、こどもへの予防的支援を強化するため、貧困・児童虐待等のリスクを抱えるこどもを早期に把握し、適切な支援につなげます。

○虐待を未然に防ぐため、不安や課題を抱える世帯に対し、親子関係再構築のための教室やヘルパー等の訪問支援により、家庭の養育力向上と孤立の防止を図ります。

○社会総がかりで未来を担うこどもを育む環境を整えるため、学校を支援できる企業等を取りまとめた「いずみ未来サポーターズブック」

を作成します。

3. 互いに助け合い、学び、市民が創るまちの実現

(国際社会で活躍できる人を育てる教育環境づくり)

- 光明台中学校区の児童生徒数を見通し、よりよい教育環境を確保するため、施設一体型義務教育学校の導入をはじめとした学校適正配置について、地域との意見交換を進めます。
- 本市3校目となる施設一体型義務教育学校「(仮称) 富秋学園」について、新校舎整備や通学路の安全対策、給食の委託化、学校図書室の地域開放等、令和9年4月開校に向けた準備を進めます。
- 学校校舎の長寿命化を図るため、校舎の大規模改修について、小・中学校5校の工事及び4校の設計に取り組みます。
- 学習者用端末を効果的に活用するため、全普通教室のモニターを65インチの電子黒板機能付きの大型モニターへ更新します。
- 副校長・教頭が組織のマネジメントや関係機関との連携など、管理職としての役割に注力できる体制を整えるため、業務を支援する支援員を配置します。
- 本市に愛着を持った意欲の高い教員を確保するため、教員を

めざす学生を学校に派遣し、年間を通して本市の学校現場を理解しながら児童生徒と触れ合う機会を創出します。

○日本語指導が必要な児童生徒の増加に対応するため、語学指導員や翻訳システムを充実し、適切にサポートします。

○スクールソーシャルワーカーや社会福祉士、校内教育支援センターの不登校対策支援員を増員し、学校における子どもの支援体制を強化します。

○小・中学生の美術活動と情操教育、また久保惣記念美術館の魅力向上と来訪促進につなげるため、小・中学生の絵画等の作品を久保惣記念美術館に展示します。

(市民がまちを愛し、自らまちの担い手として活躍できる仕組みづくり)

○市民の相互理解と交流の場を創出するとともに、豊かな国際感覚を備えた人材を育成するため、姉妹都市ブルーミントン市からの交換学生を受け入れます。

(多様な学びの機会の提供と、歴史・文化の保存・活用)

○郷土の歩みを次世代に繋ぐため、いずみの国歴史館に「文書館

(もんじょかん)」機能を設置し、古文書や歴史公文書の保存・公開を行うとともに、デジタルアーカイブによる発信を行います。

○史跡池上曾根遺跡の賑わいを作る「(仮称)池上プレイステージ」において、多目的広場の一部をオープンします。

○国の登録有形文化財である久保惣記念美術館の茶室を保存・活用するため、耐震補強工事(Ⅱ期)に着手します。

4. いつまでも安定した行政サービスを提供できるまちの実現

(持続可能なまちづくりに向けた行財政運営)

○市民の利便性向上と行政のDXを推進するため、大阪府・市町村総合行政ポータル「マイド・ア・おおさか」を活用し、通知のデジタル化と属性に応じた情報等を配信します。

○市民サービス向上のため、マイナンバーカードの手続きについて、窓口支援の拡充と電話問合せへの自動応答システムを導入します。

○市政に貢献できる能力の高い職員を育成するため、大学院修学や一級建築士等の難関資格取得に係る費用の一部を補助します。

○ふるさと納税について、個人版は返礼品の開拓やPRに創意工夫を凝らし、企業版は民間ノウハウの活用や包括連携企業を中心にアプローチすることで、更なる歳入確保に取り組みます。

(公共施設や市有財産の効果的な活用)

○各公共施設の現状や今後の改修に要する費用の見込みを示す

「第2期個別施設計画」を策定するとともに、市全体の公共施設のあり方を示す「公共施設等総合管理計画」の改訂に取り組みます。

○撤去した自転車等の保管機能を信太山駅前駐輪場内に移転し、

今後の売却に向けて保管用地の除却・測量を行います。

○活用の見込みがない土地、建物について、売却・貸付け等を行う

ほか、更新後の消防車両等を官公庁オークション等により売却することで、歳入確保に取り組みます。

《 結びに 》

以上が、令和8年度市政運営方針でございます。

バブル崩壊後、日本は「失われた30年」、さらには「40年」とも言われる時代を歩んでいます。GDPでは中国やドイツに抜かれ、インドにも追い越される可能性が指摘されています。しかし一方で、株価が最高値を更新し、雇用や企業活動をはじめ実体経済の動きにも回復の兆しが見え始めました。昭和の高名な教育者・森信三氏は「2025年から日本は甦りの兆しが現れ、2050年には世界が

日本の底力を認めざるを得なくなる」と述べています。私たちはまさにその転換点に立っています。

令和7年を振り返りますと、物価高騰に伴う市民生活への影響や、人口減少・人口構造の変化など今後の市政運営にかかる課題が山積しておりました。その様な中、議員の皆様からは現場に根ざした多角的で建設的なご提案を数多くいただきました。一つひとつのご意見が市政運営の質を高め、市民の安心と信頼へとつながっていることを強く実感しております。しかし、財政をはじめとする構造的な課題は今なお厳しい状況にあり、これまでと同じ歩みの先に、将来の安住が約束されているわけではありません。

変えるべきものは勇気をもって変え、守るべきものは責任をもって守り抜く。そのために、正面から議論し、合意形成を重ね、最善の選択を導く市政を進めてまいりました。

日本は豊かな天然資源に恵まれた国ではありませんが、「人」という最大の資源があります。勤勉さ、誠実さ、協力し合う力こそ、世界に誇る日本の強みです。表現が少し過激ですが、「若者・馬鹿者・よそ者・着物（女性）・本物」という五つの「もの」について聞かれたことがあるかもしれません。新しい発想を持つ者、愚直にやり抜く

者、異文化を持つ者、女性の活躍、そして本質を貫く者。多様な力が合わさることで、社会は大きく変革し進化するのです。

競争の世界では、強者が有利に見えますが、弱者でも、尺度を変え、自らの強みを活かすことで十分に勝機をつかめます。日本の短距離選手は個では世界に及ばない場面もありますが、バトンをつなぐリレーでは世界の頂点に肉薄します。組織も同じで、複数の力が集まった時に真価を発揮するのです。市役所においても、部署横断の事業が同時進行する中、庁内全体の連携を強化し、「やってやろうじゃないか。みんなで頑張ろう」との思いを共有し、確かな成果へとつなげてまいります。

「本気の挑戦にこそ神が宿る」、これはある小説の言葉です。本当に素晴らしい成果や価値というものは、信念を持って真摯に努力する中でしか得られません。令和8年度は、丙午年にふさわしく、スピード感、エネルギー、そして情熱を持って、課題解決にこれまで以上に「ど真剣」に取り組んでまいります。議員の皆様、市民の皆の変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。